

温泉揭示（温泉法第18条第1項に基づく温泉成分の提示）

効果的で安全な温泉入浴のため、次の提示をよく読んで入浴してください。

温泉の成分									
1 源泉名		紫雲寺温泉							
2 泉質		含よう素－ナトリウム－塩化物強塩温泉（高張性中性高温泉）							
3 泉温		源泉 54.8℃（計測時における気温23℃） 使用位置 ℃（計測時における気温 ℃）							
4 温泉の成分									
1kg中に含有する成分、分量及び組成									
(イ) 陽イオン成分		ミリグラム (mg)	ミリバル (mval)	ミリバル％ (mval％)	(ロ) 陰イオン成分		ミリグラム (mg)	ミリバル (mval)	ミリバル％ (mval％)
水素イオン	H+	-	-	-	ふっ化物イオン	F-	0.0	-	-
リチウムイオン	Li+	5.0	0.72	0.12	塩化物イオン	Cl-	22000	620.5	97.87
ナトリウムイオン	Na+	11800	513.3	85.21	臭化物イオン	Br-	146.5	1.83	0.29
カリウムイオン	K+	421.8	10.79	1.79	よう化物イオン	I-	97.3	0.77	0.12
アンモニウムイオン	NH4+	454.6	25.20	4.18	亜硝酸イオン	NO2-	0.0	-	-
マグネシウムイオン	Mg2+	144.9	11.92	1.98	硝酸イオン	NO3-	1.4	0.02	-
カルシウムイオン	Ca2+	803.4	40.09	6.66	水酸イオン	OH-	-	-	-
ストロンチウムイオン	Sr2+	5.4	0.12	0.02	硫化水素イオン	HS-	0.0	-	-
バリウムイオン	Ba2+	3.2	0.05	0.01	硫酸水素イオン	HSO4-	0.0	-	-
アルミニウムイオン	Al3+	0.0	-	-	チオ硫酸イオン	S2O32-	0.1	0.00	0.00
マンガンイオン	Mn2+	0.3	0.01	0.00	硫酸イオン	SO42-	3.3	0.07	0.01
鉄(Ⅱ)イオン	Fe2+	4.5	0.16	0.03	りん酸水素イオン	HPO42-	0.0	-	-
鉄(Ⅲ)イオン	Fe3+	-	-	-	メタ亜ひ酸イオン	AsO2-	-	-	-
銅イオン	Cu2+	0.0	-	-	炭酸水素イオン	HCO3-	659.0	10.80	1.70
亜鉛イオン	Zn2+	0.0	-	-	炭酸イオン	CO32-	0.0	-	-
					メタけい酸イオン	HSiO3-	-	-	-
					メタほう酸イオン	BO2-	-	-	-
陽イオン		13643	602.3	100	陰イオン 計		22908	634.0	100
(ハ)非解離成分		ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)						
メタけい酸	H2SiO3	121.9	1.56						
メタほう酸	HBO2	121.0	2.76						
非解離成分 計		242.9	4.32						
(ニ)溶存ガス成分		ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)						
遊離二酸化炭素	CO2	87.8	2.00						
遊離硫化水素	H2S	0.0	-						
溶存ガス成分 計		87.8	2.00						
溶存物質(ガス性のものを除く)		36794mg/kg				成分総計 36881mg/kg			
(ホ)その他微量成分		総ひ素(As)	0.001	(ヘ)その他参考 事項(試験室)	密度	(20℃/4℃)1.0249			
		総水銀(Hg)	不検出		pH値	pH 6.8			
		鉛(Pb)	不検出		蒸発残留物	38310 mg/kg			
		カドミウム(Cd)	不検出		知覚的試験	無色澄明のち淡黄色			
		総クロム(Cr)	不検出			微鉄臭、強塩味			
5 温泉の分析年月日		令和元年7月21日 （温泉ゆう出地 新発田市藤塚浜大字浜山243番地）							
6 分析者		名称：一般財団法人 新潟県環境分析センター 登録番号：新潟県（登）環企第4号							
7 源泉のゆう出量及び供給量		89 ℓ /min							
8 源泉からの温泉供給の方法		源泉から直接供給しています。							
9 ゆう出形態		動力揚湯（水中ポンプ）（掘削深度1330.5m）							

禁忌症及び適応症	
この温泉は、次のような適応症がありますが、禁忌症もありますので、その場合は入浴を控えてください	
1.禁忌症	
（１）一般禁忌症	
・病気の活動期（特に熱があるとき）	
・活動性の結核、進行した悪性腫瘍又は高度の貧血など身体的衰弱の著しい場合	
・少し動くと息苦しくなるような重い心臓又は肺の病気、むくみのあるような重い腎臓の病気	
・消化管出血、目に見える出血があるとき	
・慢性の病気の急性増悪期	
2. 適応症	
（１）一般的適応症	
・筋肉若しくは関節の慢性的な痛み又はこわばり（関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期）	
・運動麻痺における筋肉のこわばり	
・胃腸機能の低下（胃がもたれる、腸にガスがたまるなど）	
・軽症高血圧	
・耐糖能異常（糖尿病）	
・軽い高コレステロール血症	
・軽い喘息又は肺気腫	
・痔の痛み	
・自律神経不安定症	
・病後回復期	
・疲労回復、健康増進	
（２）泉質別適応症	
・きりきず	
・冷え性	
・末梢循環障害	
・うつ状態	
・皮膚乾燥症	

入浴の方法及び注意	
1、入浴前の注意	
（１） 食事の直前、直後及び飲酒後の入浴は避けること。酩酊状態での入浴は特に避けること。	
（２） 過度の疲労時には身体を休めること。	
（３） 運動後３０分程度の間は身体を休めること。	
（４） 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、１人での入浴は避けることが望ましい。	
（５） 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度にならすとともに、身体を洗い流すこと。	
（６） 入浴時、特に起床直後の入浴時などは脱水症状等にならないよう、あらかじめコップ一杯程度の水分を補給しておくこと。	
2、入浴方法	
（１） <u>入浴温度</u> 高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は、４２℃以上の高温浴は避けること。	
（２） <u>入浴形態</u> 心肺機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこと。	
（３） <u>入浴回数</u> 入浴開始後数日間は、１日当たり１～２回とし、慣れてきたら２～３回まで増やしてもよいこと。	
（４） <u>入浴時間</u> 入浴温度により異なるが、１回当たり、初めは３～１０分程度とし、慣れてきたら１５分～２０分程度まで延長してもよいこと。	
3、入浴中の注意	
（１） 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静	